

令和6年度事業計画書

自 令和6年 4月 1日
至 令和7年 3月 31日

公益財団法人 がん研究振興財団

令和6年度事業計画書

1. 研究助成事業

(1) がん研究助成

- ① がんに関する研究に従事する日本人研究者又はそのグループを対象に研究助成金を贈呈する。(57回目の助成)
- ② 看護師、薬剤師、技師(放射線・検査等)、管理栄養士、放射線医学物理士、実験動物関係技術者、臨床心理士等幅広く対象とし、それぞれの職種における実践的研究に対し助成する。
- ③ 「充実したがんサバイバーシップを実現する社会の構築をめざした研究」の課題解決に向けた研究に対し助成する。

(2) 海外派遣研究助成

がんに関する国際会議、国際学会への出席者に対して助成を行う。
研究費等での対応が困難な若手研究者を対象とする。

2. 関係団体助成事業

UICC(国際対がん連合)の事業に対して協力助成を行い、世界、アジア等のがん対策に貢献する。

3. 技術者研修助成事業

国際交流を推進し、がん看護等の知識・技術の向上を図るため、メディカルスタッフの海外研修留学等に対して助成を行ってきており、今年度で19年目を迎える。対象は、看護師、薬剤師、放射線技師、管理栄養士、臨床検査技師、ソーシャルワーカー等とする。

4. がんになっても生きる希望を持てる事業(HOPE事業)

「がん研究10か年戦略」による研究支援事業を継続的に推進していくため、幅広い研究分野における柔軟な発想を持った人材を研究領域に取込むための戦略的育成等の研究支援を行う。

5. 「充実したサバイバーシップを実現する社会の構築をめざした研究」課題解決に向けた支援事業（がんサバイバーシップ研究支援事業）

「がん研究10か年戦略」の具体的研究事項として「充実したサバイバーシップを実現する社会の構築をめざした研究」が課題とされており、患者本人や家族が本来の生活の場所（家庭、職場、学校、地域コミュニティなど）で暮らしていく過程で直面する様々な課題解決に関する研究の支援を行う。

6. 多様化する情報ニーズに対応するためのエビデンスに基づいた国民への薬物療法等の情報提供支援事業（がん情報提供支援事業）

科学的根拠に基づく情報を迅速に提供するため、臨床試験情報及び薬物療法プロトコル情報等に関する諸問題や個別目標に直接寄与するための事業を支援する。

7. 研究成果等普及啓発事業

シンポジウムの開催及びがん研究の成果を国民にフィードバックする観点から各種情報媒体を活用した普及啓発を行う。

8. 広報活動事業

がん研究の成果を国民にフィードバックするため、ホームページの充実やパンフレット等の作成を行い、全国の学校や保健所・診療機関等に配布し、がん予防及びがんの正しい知識のわかりやすい情報提供を行う。